

平成28年度第2回 独立行政法人農業者年金基金資金運用委員会 議事概要

1. 開催日時

平成29年2月8日（水）14:00～16:00

2. 開催場所

独立行政法人農業者年金基金 特別会議室

3. 出席委員

・浅野幸弘 委員長 ・臼杵政治 委員 ・菅原晴樹 委員 ・枇杷高志 委員

4. 議事

- ・資金運用に関するアンケート調査結果について
- ・次期政策アセットミックスの検討に向けた課題について 等

5. 概要

昨年11月に実施した資金運用に関するアンケート調査結果について事務局から報告した。

次期政策アセットミックスの検討に向けた課題については、昨今の金融情勢を踏まえ、「超長期債と短期資産の組合せ」及び「ヘッジ外債」の導入について事務局から説明し、引き続き検討を進めていくこととなった。

受給権者ポートフォリオの運用について、年金財政へ寄与させるため、年度内に償還を迎える国内債券を償還前に売却する案を事務局から説明し、了承された。

なお、今回の議事についての委員からの主な意見等は以下のとおり。

<主な意見等>

- アンケート調査結果について、現在の金融情勢で、運用結果に対する加入者の満足度が前回調査よりも低かったことはやむを得ないのではないかと。
ただし、毎年度の付利通知の際に、金利低下の状況を情報提供したり、リスクとリターンの相反する関係について説明するなど、加入者に対して丁寧な広報活動を行うことで、満足度の低下を抑える努力が必要。
- 「超長期債」や「ヘッジ外債」の導入については、世の中でもよく検討されている考え方であり、検討対象としては妥当ではないかと。
- 政策アセットミックスの最適化にあたっては、特に今後、超長期債の導入も視野に入れて検討を行うのであれば、自家運用の扱い方についても改めて整理するべきではないかと。
- ヘッジ外債の導入にあたっては、過去の数値によるシミュレーションだけではなく、どういったメリットがあると考えて導入しようとするのか、また、そのメリットは過去において効果を発揮していたのか、今後も期待できるものなのか、といった定性的な分析が必要ではないかと。

以上